



Sun A. Kaken

**第112期(2021年3月期)
決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2021年6月3日

目次

1. 第112期(2021年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第113期(2022年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

目次

1. 第112期(2021年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第112期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2019年3月期末 (第110期末)	2020年3月期末 (第111期末)	2021年3月期末 (第112期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	20,028	20,075	22,420	2,345	11.7%
現金預金	5,380	6,341	7,147	805	12.7%
売上債権	10,974	10,341	11,628	1,286	12.4%
棚卸資産	3,338	3,274	3,605	331	10.1%
その他	334	117	39	▲78	▲66.4%
固定資産	13,757	11,552	13,567	2,015	17.4%
有形固定資産	7,528	6,520	7,325	805	12.3%
無形固定資産	32	27	54	26	96.6%
投資その他の資産	6,196	5,004	6,188	1,183	23.7%
資産合計	33,786	31,627	35,988	4,360	13.8%

※百万円未満切捨て

第112期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2019年3月期末 (第110期末)	2020年3月期末 (第111期末)	2021年3月期末 (第112期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,060	12,303	12,625	322	2.6%
仕入債務	6,898	6,148	6,888	739	12.0%
短期借入金	3,280	4,120	3,470	▲650	▲15.8%
その他	1,881	2,034	2,267	232	11.4%
固定負債	2,345	1,982	3,503	1,521	76.7%
長期借入金	715	355	1,393	1,037	291.8%
その他	1,629	1,627	2,110	483	29.7%
負債合計	14,405	14,286	16,129	1,843	12.9%
純資産	19,380	17,341	19,859	2,517	14.5%
負債及び純資産合計	33,786	31,627	35,988	4,360	13.8%

※百万円未満切捨て

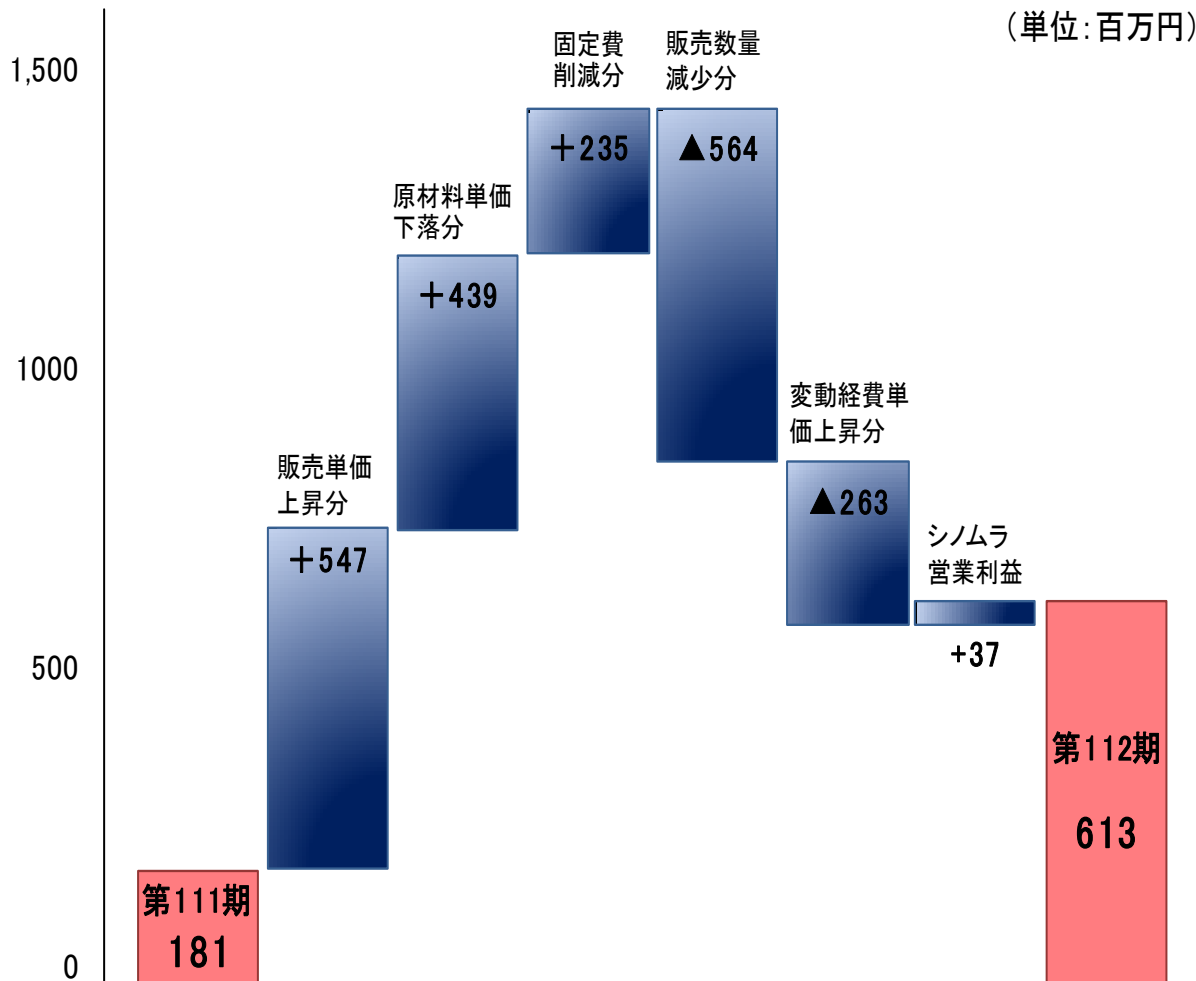
第112期決算概要：連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2019年3月期 (第110期)	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	31,195	29,698	29,986	288	1.0%
売上原価	27,752	26,480	26,275	▲205	▲0.8%
売上総利益	3,443	3,217	3,711	493	15.3%
販売費及び一般管理費	3,117	3,036	3,097	61	2.0%
営業利益	326	181	613	431	238.1%
営業外収益	518	284	330	45	16.1%
営業外費用	256	628	37	▲590	▲94.0%
経常利益	587	▲161	906	1,068	—
特別利益	285	1	469	468	30403.1%
特別損失	506	1,133	64	▲1,069	▲94.3%
税金等調整前当期純利益	366	▲1,294	1,311	2,605	—
税金費用他	180	43	210	166	379.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	185	▲1,338	1,101	2,439	—

※百万円未満切捨て

第112期決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、全セグメントで販売数量が減少し、▲5億64百万円の減益要因となりました。一方、高価格帯の製品販売が比較的堅調で、平均販売単価が上昇し、+5億47百万円の増益要因となりました。

費用面においては、前期末の掛川工場WEST減損処理に伴う償却費減少及び労務費その他固定費の削減で+2億35百万円、原材料単価の下落で+4億39百万円がそれぞれ増益要因となりました。一方、数量減少に反して外注加工費等が増加したことから変動経費の平均単価が上昇し、▲2億63百万円の減益要因となりました。

また、昨年10月に子会社化したシノムラ化学工業の営業利益37百万円が加算され、連結営業利益は4億31百万円の増益となりました。

目次

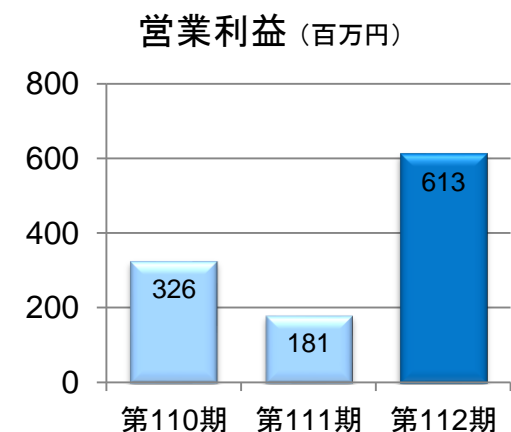
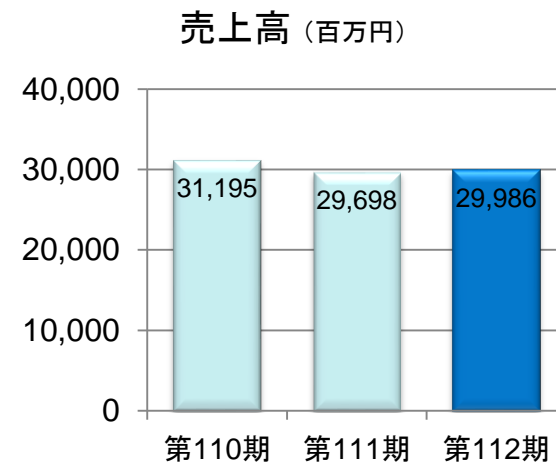
2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目/ セグメント	2019年3月期 (第110期)	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	31,195	29,698	29,986	288	1.0%
軽包装材料	12,632	11,760	12,000	240	2.0%
産業資材	7,045	7,300	8,967	1,666	22.8%
機能性材料	10,873	10,040	8,581	▲1,459	▲14.5%
その他	643	596	437	▲159	▲26.8%
営業利益	326	181	613	431	238.1%
軽包装材料	384	253	397	143	56.3%
産業資材	▲827	▲547	▲236	311	—
機能性材料	767	487	466	▲20	▲4.2%
その他	1	▲12	▲14	▲1	—



※百万円未満切捨て

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品関連

売上高
6,132百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- コロナ禍で「レンジD○!」の需要拡大
- 業務用包材の需要回復に期待

医薬品・医療器具関連

売上高
2,262百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- コロナ禍で外来患者の処方減少

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢者増加により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

売上高
1,311百万円



詰替え用パウチの需要増に伴うニーズに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 詰替え用パウチの普及による需要拡大に期待

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材の拡販に期待

精密機器関連その他

売上高
2,293百万円



エア緩衝材の用途開発による顧客開拓を図る。環境対応製品の開発に注力。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エア関連製品は競合少ない

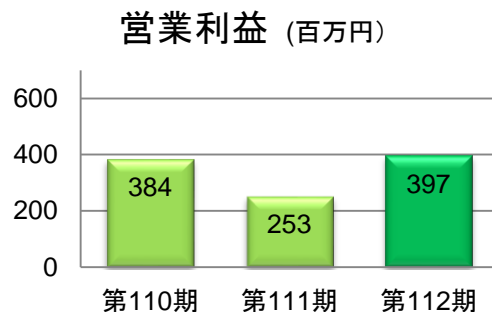
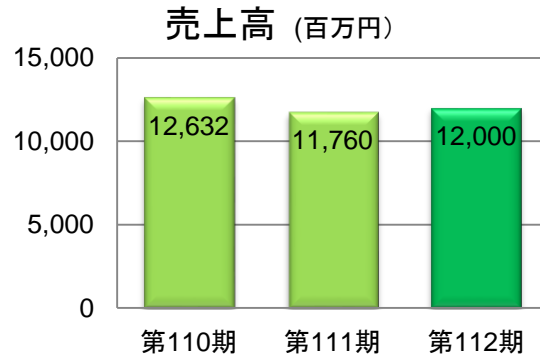
収益性・成長性

- 環境対応製品の開発ニーズが増加
- 主要顧客の使用量削減の影響は縮小

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高： 12,000 百万円（前期比 2.0% 増）
- 営業利益： 397 百万円（前期比 56.3% 増）

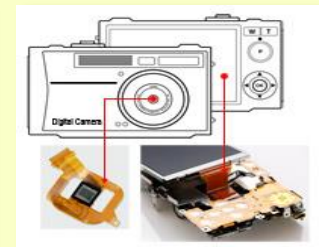


- 食品用包材は、外出自粛の影響で清涼飲料用パウチが低調であった反面、電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」が好調で、増収。
- 医薬品・医療用包材は、医療機関への外来患者数減少等の影響で受注が減少し、減収。
- 洗剤・トイレタリー用包材は、化粧品関連の不調が続くも、ハンドソープ、消毒液等の詰替え用が伸長し、増収。
- 精密機器その他の包材は、新型コロナウイルスの影響により、エア緩衝材をはじめ全般的に受注が減少し、減収。
- 食品及び洗剤・トイレタリー用包材の販売増により増益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

ラミネート紙

売上高
1,536百万円



主に粘着テープ用基材（紙ベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- テープ用：約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープの国内生産量は横ばい

ラミネート布・ 布粘着テープ

売上高
3,002百万円



主に粘着テープ用基材（布・樹脂クロスベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定
- 養生用テープ向けの需要増加に期待

剥離紙

売上高
4,428百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

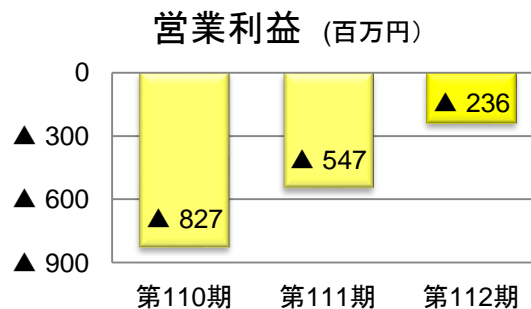
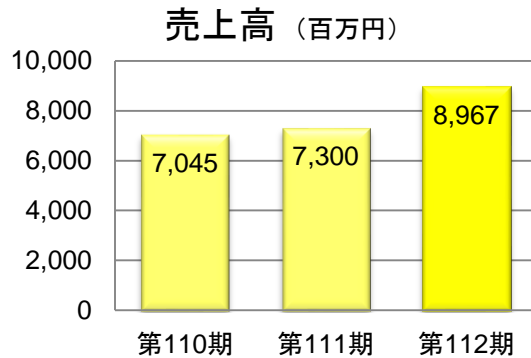
収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- FPC用工程紙、炭素繊維プリプレグ用工程紙の開発・拡販に注力

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 8,967 百万円（前期比 22.8% 増）
- 営業利益： ▲236 百万円（前期実績 ▲547 百万円）

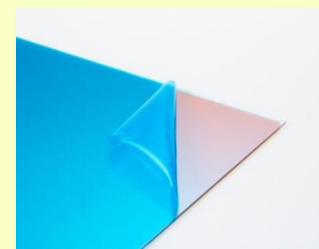


- 粘着テープ基材については、事業者間の荷動きが低調で梱包用テープの需要が減少。自然災害の備えとしての養生用テープの需要一服の影響を受けるも、昨年10月のシノムラ化学工業の子会社化により、増収。
- 剥離紙については、新型コロナの影響でPOPラベル関連が低調。一方、FPC(フレキシブルプリント基板)用工程紙については、夏以降の回復基調が持続し、受注拡大。さらにシノムラ化学工業の子会社化により、増収。
- シノムラ化学工業の子会社化に伴う利益増加に加え、合理化の進展と原材料コスト低減により、営業損失縮小。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料 (蘇州)有限公司



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

サニテクト

売上高
2,024百万円



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約300百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 一般用途ではユーザーの海外移転が進み、国内市場は縮小傾向
- PCの生産量増加に伴い光学用途が回復

PAC

売上高
1,358百万円



2層押し出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模（推定）

- 約900百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 偏光板用は一定の需要が見込めるも、品質要求は高度化
- 強粘着タイプの拡販が課題

SAT・粘着加工品

売上高
5,198百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

- 約450百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

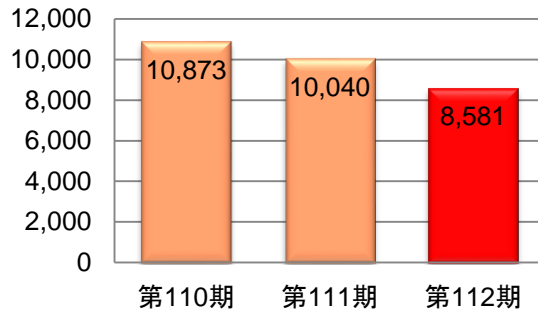
- 中国市場での競争激化。顧客の品質要求への対応力向上が課題
- スマートフォン関連は受注量の変動大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

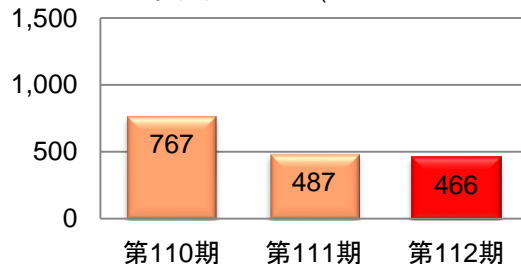
機能性材料

- 売上高： 8,581 百万円（前期比 14.5% 減）
- 営業利益： 466 百万円（前期比 4.2% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「サニテクト」については、一般用途の受注は減少したが、テレワーク導入企業の増加により、パソコン向けの受注が増加。PET基材のNSタイプも伸長し、増収。
- 「PAC」及び「SAT」については、新型コロナと米中貿易摩擦の影響を受け、偏光板用及びスマートフォン関連の受注が減少。下期に入り若干回復に転じるも、上期の落ち込みをカバーできず、減収。
- 合理化と原材料コスト低減により、コスト削減が進展するも、「SAT」の減収が響き、減益。

目次

3. 第113期(2022年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別の業績予想
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第113期業績予想と今後の施策：翌期業績予想

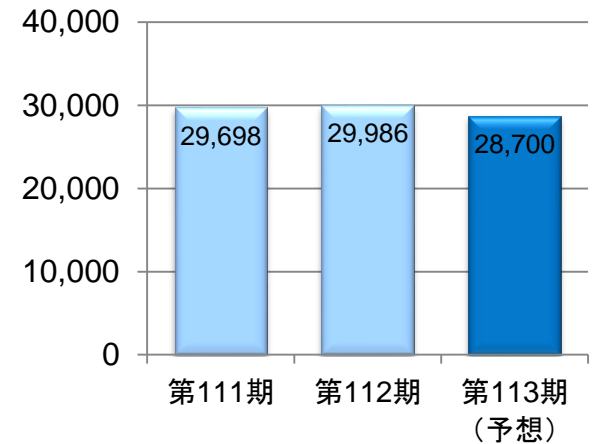
(単位：百万円)

科目／セグメント	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,698	29,986	28,700 (31,700)	— (1,713)	— (5.7%)
軽包装材料	11,760	12,000	10,900 (12,400)	— (399)	— (3.3%)
産業資材	7,300	8,967	9,800 (11,300)	— (2,332)	— (26.0%)
機能性材料	10,040	8,581	7,600	▲981	▲11.4%
その他	596	437	400	▲37	▲8.5%
営業利益	181	613	630	16	2.7%
経常利益	▲161	906	760	▲146	▲16.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲1,338	1,101	530	▲571	▲51.9%

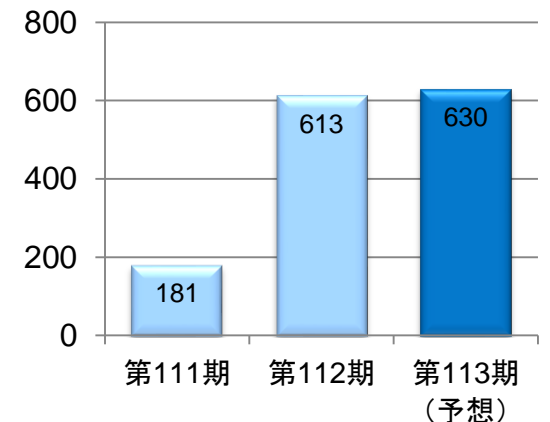
※()内は「収益認識に関する会計基準」が適用される前の従来基準に基づく予想値

※百万円未満切捨て

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



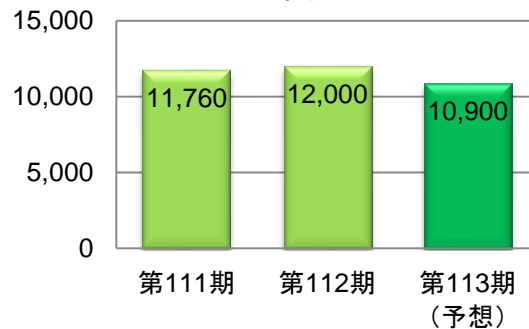
第113期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

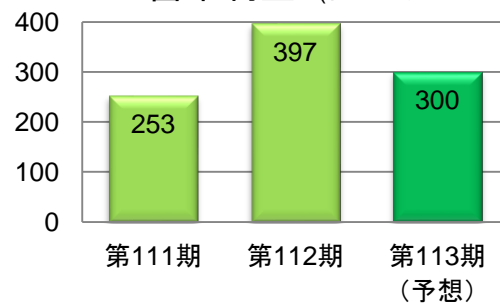
【第113期業績予想】 ※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の予想値

- 売上高：10,900 百万円
(12,400 百万円 前期比 3.3% 増)
- 営業利益：300 百万円 (前期比 24.4% 減)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



- 新型コロナの影響の長期化が予想される中、電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」や消毒液、ハンドソープ用詰替えパウチは堅調な受注が見込まれる。
- 一方、清涼飲料用パウチ、医薬品・医療用包材、化粧品用包材、エア緩衝材等は、新型コロナが収束するまで回復は厳しい状況。
- 実質的に増収を見込むも、春先以降のナフサ価格高止まりにより、原材料コスト上昇が見込まれ、減益の見通し。

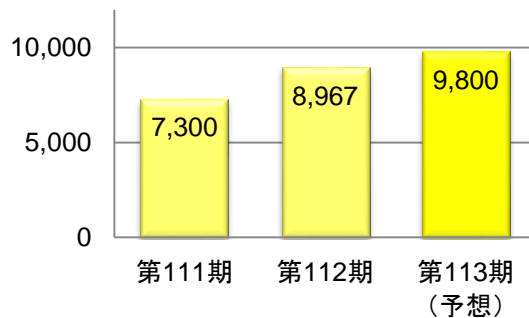
第113期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

産業資材

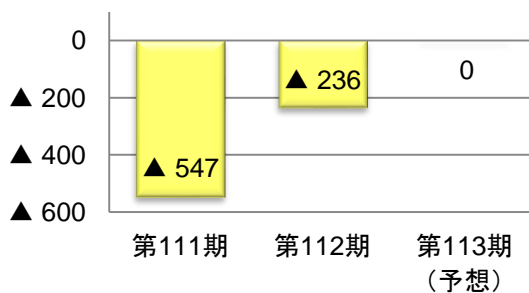
【第113期業績予想】※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の予想値

- 売上高： 9,800 百万円
(11,300 百万円 前期比 26.0% 増)
- 営業利益： 0 百万円 (前期実績 ▲236 百万円)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



- テープ用基材については、養生用テープの需要が増加傾向にあり、増収を見込む。
- 剥離紙については、FPC用工程紙がIT関連用途で堅調の見込み。自動車部品関連も減産の影響は限定的と見られ、回復の見通し。
- 昨年10月のシノムラ化学工業子会社化による売上高の増加が通期にわたって寄与し、増収の見込み。
- 原材料コスト上昇が見込まれるも、シノムラ化学工業とのシナジー創出で、営業損失解消を見込む。

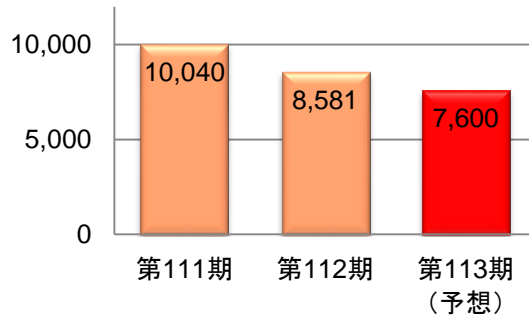
第113期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

機能性材料

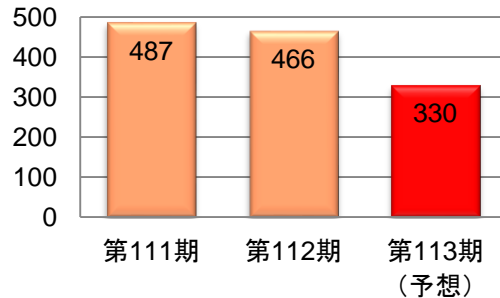
【第113期業績予想】

- 売上高： 7,600 百万円（前期比 11.4 % 減）
- 営業利益： 330 百万円（前期比 29.3 % 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

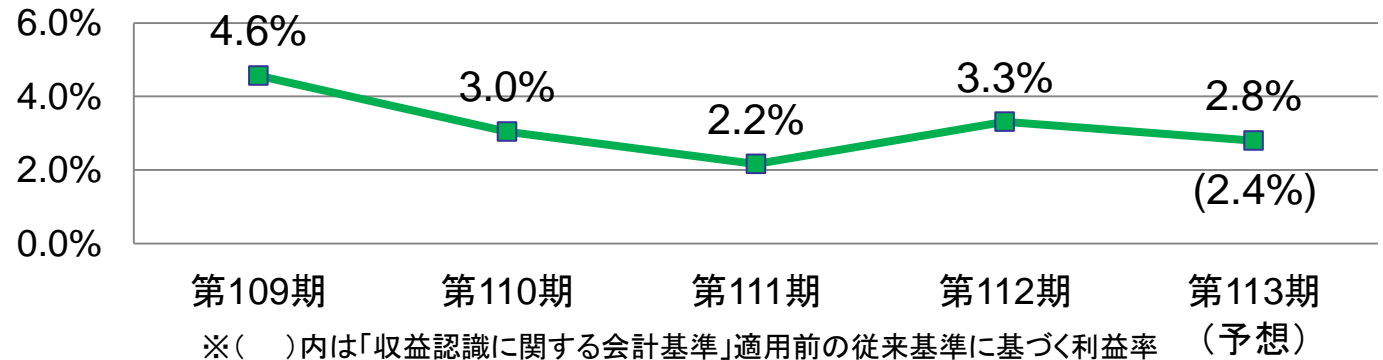


- 「サニテクト」は、光学用途が堅調。中でもPET基材のN Sタイプの引き合いが強く、増収の見込み。
- 液晶テレビに使用される偏光板用途の表面保護フィルムは、中国市場の競争激化により減収を見込む。
- スマートフォン関連では需要回復が見込まれるも、新型コロナウイルスによる開発案件停滞の影響を受け、受注回復は遅れ気味。
- 液晶テレビ向けの競争激化と開発案件の受注回復の遅れに原材料コスト上昇が加わり、減益の見通し。

第113期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

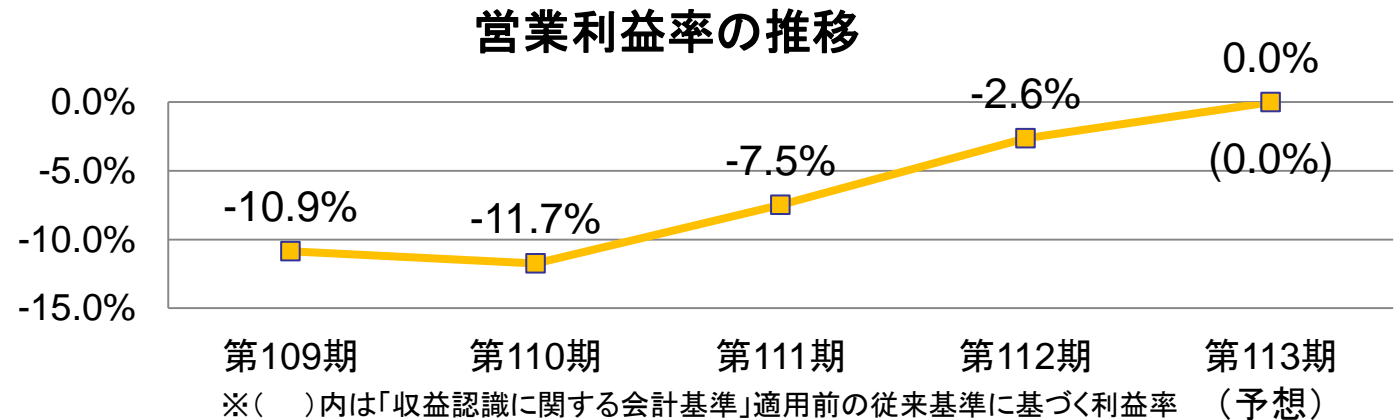
営業利益率の推移



- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 内食ブームの持続を背景に、食品メーカーとの協業による「レンジDo!」の採用を提案するとともに、増産に備え生産体制を強化し、売上拡大を図る。
- 耐内容物包材やエア緩衝材については、新たな用途開発や顧客開拓を推進するとともに、既存製品の改良・改善を進め、売上回復に努める。
- 紙、生分解性プラスチック、バイオマスプラスチックを主原料とする環境対応包材の開発やリサイクルしやすいモノマテリアル(単一素材)化に取り組む。

第113期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

産業資材

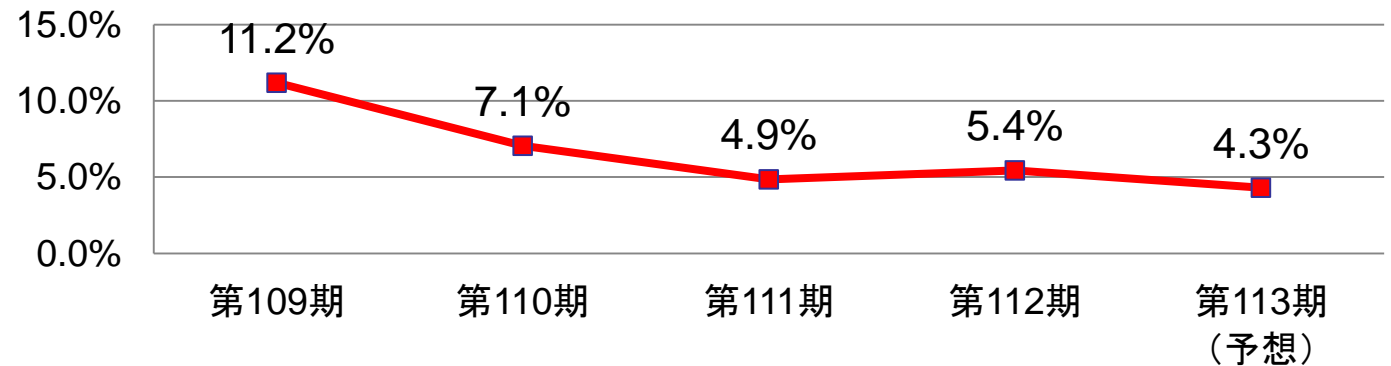


- 高収益分野への展開と生産体制の再構築によって、収益構造の転換を図る
- シノムラ化学工業の子会社化により業界トップとなった布テープ基材の生産実績を活かし、防災用に市場が拡大している養生用テープ向けの需要取込みを狙う。
- シノムラ化学工業の子会社化によるPMIを進め、当セグメントの生産体制を最適化するとともに、開発・生産・販売面でのシナジー創出により収益性向上を図る。
- 収益性の高いIT関連分野やメディカル分野への製品展開を推進するとともに、炭素繊維関連製品や環境対応製品の開発に注力する。

第113期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）

機能性材料

営業利益率の推移



- 技術・品質・顧客対応の強化によって、安定的に高収益を維持する
- 顧客密着型の開発態勢を継続。コロナ禍においても、顧客との協業関係を可能な限り維持し、先端分野の技術を研鑽するとともに将来の受注機会を確保する。
- 液晶テレビ向け表面保護フィルムは中国市場の競争激化により受注拡大が困難。パソコン・スマートフォン向け需要増の取込みとコストダウンで収益確保を図る。
- 抗菌・抗ウイルス性を付加した新製品「バイプロテープ」に注力。消費者向けにも商品展開を図り、新たな収益基盤の確立を目指す。

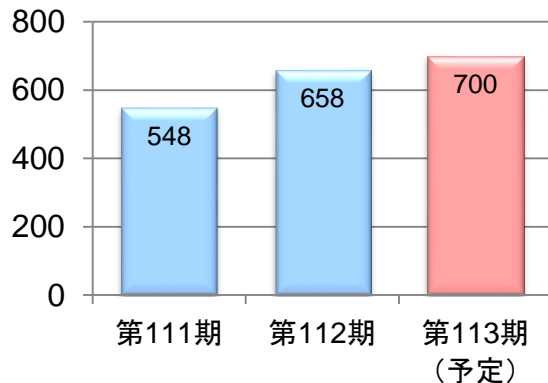
第113期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位：百万円)

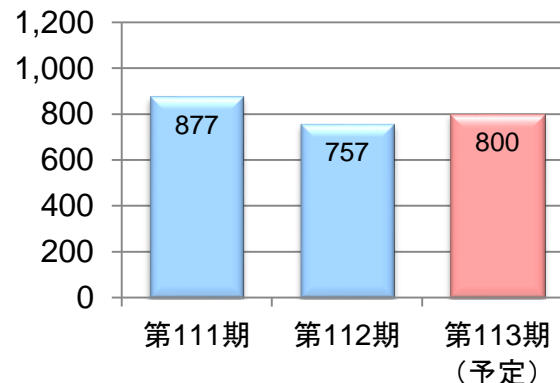
科目	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期) (予定)	備考
設備投資額	548	658	700	加工機・検査機の増設・更新、工場建屋の拡張他
減価償却費	877	757	800	前期投資分及びシノムラ化学分の増加
研究開発費	442	428	440	人件費、試験費、試作費等の増加

※設備投資額は無形固定資産を含まず ※百万円未満切捨て

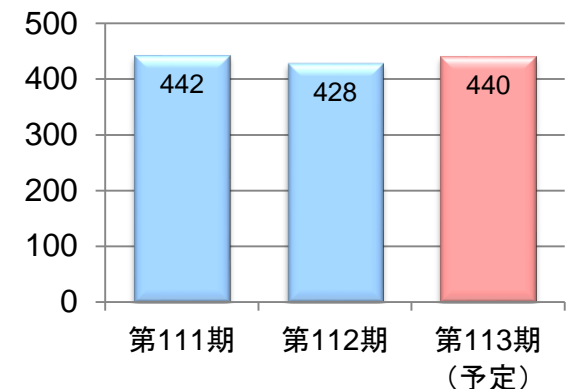
設備投資額 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



目 次

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

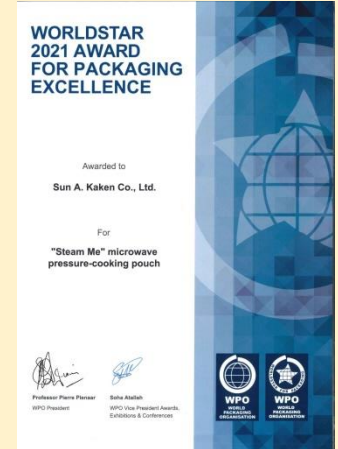
参考情報:トピックス 1

■「ワールドスターコンテスト 2021」で初受賞

味の素株式会社様の「スチーミー」(圧力スチームクッキング調味料)には、当社が「レンジD。!」で培った技術を活かし、同社と共同開発したパウチが使用されています。

この度、この「スチーミー」が、世界包装機構主催の「ワールドスターコンテスト 2021」においてワールドスター賞を受賞しました。

※ 「ワールドスターコンテスト」とは、世界包装機構(WPO:World Packaging Organisation)が主催し、世界的に優れたパッケージとその技術の開発・普及を目的として毎年開催される国際パッケージコンテストです。



味の素株式会社様より「スチーミー」の「豚チャーシュー用」に次いで「鶏チャーシュー用」が新たにラインアップ。



参考情報: トピックス 2

■ 抗菌・抗ウイルステープを消費者向けに製品化

新製品である抗菌・抗ウイルステープ「バイプロテープ」を一般家庭向けの製品として企画・製造し、量販店への供給を開始。

B to C の事業形態への試みと、コロナ禍のニーズに合致した製品供給を通じて新たな収益基盤の育成と知名度向上を狙う。



抗菌製品技術協議
会より抗ウイルス加
工製品としてSIAA
マーク取得済



参考情報: 基本情報

2021年3月31日現在

商 号
 証 券 コ ー ド
 設 立 者
 代 表 者
 事 業 所

株式会社 サンエー化研
 4234 (JASDAQ スタンド)

1942年9月 (昭和17年9月)

代表取締役社長 山本 明広

本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4

営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋

【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)

生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2カ所 内1カ所は連結子会社 シノムラ化学工業(株) 本社工場)、掛川 (2カ所)、奈良、野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料)

資 本 金
 事 業 内 容
 連 結 従 業 員 数
 決 算 期

研究開発拠点 : 掛川

21億76百万円

高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売

736名

3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(6月3日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp